

2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年11月9日

上場会社名 株式会社 ナック 上場取引所 東
 コード番号 9788 URL <https://www.nacoo.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉村 寛
 問合せ先責任者 (役職名) ビジネスサポート本部長 (氏名) 川上 裕也 TEL 03-3346-2111
 四半期報告書提出予定日 2020年11月10日 配当支払開始予定日 2020年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	27,008	△35.2	825	—	697	—	1,149	—
2020年3月期第2四半期	41,690	10.2	△229	—	△277	—	△700	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 1,229百万円 (—%) 2020年3月期第2四半期 △693百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	51.31	—
2020年3月期第2四半期	△31.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	42,422	20,761	48.8	924.34
2020年3月期	46,433	19,808	42.6	881.83

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 20,709百万円 2020年3月期 19,757百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	9.00	—	13.00	22.00
2021年3月期	—	9.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	27.00	36.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	△36.5	2,000	△5.6	1,900	△9.4	1,350	162.6	60.25

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）—、除外 1社（社名）株式会社レオハウス

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	24,306,750株	2020年3月期	24,306,750株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	1,901,675株	2020年3月期	1,901,645株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	22,405,102株	2020年3月期2Q	22,405,250株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）の影響により依然として極めて厳しい状況にあるものの、足元では国内外での経済活動再開や各種給付金などの政策によって、緩やかな回復基調となりました。

当社グループの事業領域である小売・サービスにおいては、感染症とそれに伴う自粛の影響により個人消費が減少していたものの、5月の緊急事態宣言解除以降は自粛傾向も弱まり、緩やかな持ち直しの動きがみられました。

他方、住宅業界では、国土交通省発表の新設住宅着工戸数が、持家で14ヶ月連続の減少、貸家や分譲住宅を含む全体でも15ヶ月連続の減少となるなど、感染症の影響から脱することができず、弱含んでおります。

このような中、当社グループでは各事業分野において、顧客サービスの向上、販売促進活動や商圏の拡大および事業再編に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高27,008百万円（前年同期比35.2%減）、営業利益825百万円（前年同期営業損失229百万円）、経常利益697百万円（同経常損失277百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,149百万円（同親会社株主に帰属する四半期純損失700百万円）となりました。

事業の種類別セグメント業績は次のとおりです。

各セグメントの営業損益のほかに、各セグメントに帰属しない全社費用等584百万円があります。

〈クリクラ事業〉

クリクラ事業では、2020年1月配送分からのクリクラボトルの価格改定により顧客単価向上を実現しました。一方、感染症の影響により積極的な対面販売が低迷する中、Webを通じた販売促進を強化するとともに、サービス品質の向上と顧客紹介の仕組みの確立によって、解約率の低下と顧客数の増加に取り組みました。

直営部門では、首都圏を中心に法人顧客の需要が減少した一方、在宅時間の増加により家庭顧客の需要が増加したことでサーバー1台あたりのボトル消費量が増え、売上高は前年同期比で増加しました。

加盟店部門でも、直営部門同様ボトル価格改定効果に加え、サーバー販売台数が増加したことにより、売上高が前年同期比で増加しました。

直営・加盟店両部門ともに、感染症の影響による除菌意識の高まりを受け、前々期より販売を開始した自社製次亜塩素酸水溶液「ZiACO（ジアコ）」の売上が大幅に伸長しました。

損益面では、両部門の売上高伸長に伴い、営業利益は前年同期比で大幅に増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高7,718百万円（前年同期比17.5%増）、営業利益934百万円（前年同期営業利益302百万円）となりました。

出店につきましては、当第2四半期連結累計期間に、熊谷営業所と前橋営業所を開設しました。

〈レンタル事業〉

主力のダスキン事業では、売上高が前年同期比で増加しました。これは、ダストコントロール商品部門において、感染症の影響により減少したレンタル売上を、売切り関連商品の販売促進活動を強化したことにより補ったことと、家事代行や害虫駆除、花と庭木の管理といった包括的な役務サービスを提供するケアサービス部門において、2018年8月に締結した株式会社ダスキンとの資本業務提携契約に基づき事業数を追加したことによりです。

「with(ウィズ)」を主力とする害虫駆除事業では、感染症の影響を受け、主要顧客である大都市圏の飲食店業界が休業を余儀なくされたことにより、売上高は前年同期比で大幅に減少しました。

法人向け定期清掃サービスを提供する株式会社アーネストにおいても、商業施設やオフィスなどの休業により、売上高は前年同期比で減少しました。

損益面では、利益率の高い害虫駆除事業の売上高が大幅に減少したことに加え、ダストコントロール商品部門において、販売促進活動強化による販売費及び一般管理費が増加したことが響き、営業利益は前年同期比で減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高7,216百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益595百万円（前年同期比37.0%減）となりました。

〈建築コンサルティング事業〉

ノウハウ販売部門では、感染症の影響により販売促進セミナーや訪問自粛を余儀なくされた一方、オンラインセミナーなどのWeb戦略が奏功し、売上高は前年同期でほぼ同水準を維持しました。

省エネ関連部資材の施工を手がけるナックスマートエネルギー株式会社では、感染症の影響で一部着工遅れが発生し、前期までの建築部資材販売部門を含む売上高は前年同期比で減少しました。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社suzukuri（住宅事業セグメントから変更）および前期株式取得により子会社化したエースホーム株式会社を当事業セグメントに加えており、結果としてセグメント全体の売上高は前年同期比で増加しました。また、当社は2020年9月1日を効力発生日として、株式会社suzukuriを吸収合併しております。

損益面では、株式会社suzukuriとナックスマートエネルギー株式会社が赤字計上となったことで、前年同期比で減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高3,845百万円（前年同期比48.8%増）、営業利益112百万円（前年同期営業利益252百万円、エースホーム株式会社ののれん償却額20百万円を含む）となりました。

出店につきましては、当第2四半期連結累計期間に、ノウハウ販売部門において、千葉営業所と静岡営業所を開設しました。

〈住宅事業〉

住宅事業では、第1四半期連結会計期間に、当社が保有する株式会社レオハウスの全株式を株式会社ヤマダ電機（現 株式会社ヤマダホールディングス）へ譲渡したことにより、同社の業績数値（前年同期売上高15,775百万円、前年同期営業損失808百万円）を、当社グループの連結業績から除外しました（株式譲渡実行日は2020年5月14日）。また、株式会社suzukuriを建築コンサルティング事業セグメントに変更しています。

株式会社ケイディアイでは、売上高は前年同期と同水準を維持しており、利益率の高い住宅販売の比率を上げたことで売上総利益率の改善を実現し、営業利益は前年同期比で増加しました。

株式会社ジェイウッドでは、住宅の引渡し前倒しにより売上高は前年同期比で増加し、販売費及び一般管理費が減少したことにより、営業損失は前年同期比で減少しました。

株式会社国木ハウスでは、売上高が前年同期比で減少したものの、売上総利益率の改善と販売費及び一般管理費の削減により、営業損失は前年同期比で減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高4,721百万円（前年同期比77.0%減）、営業損失84百万円（前年同期営業損失1,088百万円、株式会社ケイディアイ、株式会社国木ハウスののれん償却額22百万円を含む）となりました。

〈美容・健康事業〉

株式会社JIMOSでは、2019年7月に化粧品通販の自社ECサイトにおいて使用しているサーバーへの不正アクセスが発生しECサイトを約4ヶ月間停止、結果顧客数が減少したことが響き、売上高は前年同期比で大幅に減少しました。

株式会社ベルエアーでは、主力商品である栄養補助食品の販売拡大に取り組んだことにより、売上高は前年同期で同水準を維持しました。

損益面では、株式会社JIMOSにおいて広告宣伝費を中心とする販売費及び一般管理費の削減に取り組みましたが、売上高の減少を補いきれず、営業損失は前年同期比で増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高3,528百万円（前年同期比25.8%減）、営業損失147百万円（前年同期営業損失94百万円、株式会社JIMOSと株式会社ベルエアーののれん償却額等183百万円を含む）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は、42,422百万円となり、前連結会計年度末と比べ4,010百万円減少しております。これは主に、未成工事支出金が1,295百万円、販売用不動産が2,716百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債総額は、21,660百万円となり、前連結会計年度末と比べ4,964百万円減少しております。これは主に、住宅事業において工事代金の支払等による買掛金が2,926百万円減少し、未成工事受入金が2,132百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産額は、20,761百万円となり、前連結会計年度末と比べ953百万円増加しております。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と配当支払の結果、利益剰余金が873百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金という」）残高は、前連結会計年度末に比べ4,194百万円増加し13,309百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、2,690百万円となりました。これは主に短期貸付金の増減額1,679百万円、未成工事受入金の増加143百万円と、税金等調整前四半期純利益1,117百万円等による資金の増加に対し、仕入債務の減少240百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は、1,055百万円となりました。これは主に連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出809百万円と、無形固定資産の取得による支出163百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は、2,546百万円となりました。これは主に長期借入による収入1,900百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2020年9月14日に公表いたしました2021年3月期の連結業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,215	13,409
受取手形及び売掛金	4,535	3,801
商品及び製品	3,179	3,507
販売用不動産	5,401	2,685
未成工事支出金	1,893	598
原材料及び貯蔵品	474	372
その他	4,383	2,681
貸倒引当金	△225	△224
流動資産合計	28,858	26,832
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,599	4,717
土地	2,199	2,103
その他(純額)	1,816	2,314
有形固定資産合計	10,615	9,135
無形固定資産		
のれん	1,129	960
その他	1,124	1,121
無形固定資産合計	2,253	2,082
投資その他の資産		
差入保証金	2,288	1,861
その他	2,766	2,687
貸倒引当金	△428	△226
投資その他の資産合計	4,626	4,321
固定資産合計	17,496	15,539
繰延資産		
株式交付費	78	51
繰延資産合計	78	51
資産合計	46,433	42,422

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,939	2,012
短期借入金	4,000	5,100
1年内返済予定の長期借入金	2,005	2,195
未払法人税等	735	175
未成工事受入金	3,181	1,049
賞与引当金	726	783
引当金	323	222
その他	4,213	3,070
流動負債合計	20,125	14,608
固定負債		
長期借入金	3,900	4,560
引当金	10	10
退職給付に係る負債	217	229
資産除去債務	920	445
その他	1,451	1,806
固定負債合計	6,499	7,052
負債合計	26,625	21,660
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,729	6,729
資本剰余金	3,877	3,877
利益剰余金	11,304	12,178
自己株式	△1,309	△1,309
株主資本合計	20,601	21,475
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15	94
土地再評価差額金	△860	△860
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益累計額合計	△844	△765
非支配株主持分	50	51
純資産合計	19,808	20,761
負債純資産合計	46,433	42,422

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	41,690	27,008
売上原価	25,832	13,715
売上総利益	15,858	13,292
販売費及び一般管理費	16,087	12,467
営業利益又は営業損失(△)	△229	825
営業外収益		
受取利息	4	1
受取配当金	2	4
受取家賃	6	132
業務受託手数料	21	6
その他	63	42
営業外収益合計	97	186
営業外費用		
支払利息	40	39
為替差損	4	7
和解金	43	—
株式交付費償却	27	27
貸倒引当金繰入額	11	2
地代家賃	—	233
その他	17	4
営業外費用合計	144	315
経常利益又は経常損失(△)	△277	697
特別利益		
関係会社株式売却益	—	456
店舗閉鎖損失引当金戻入額	37	0
固定資産売却益	—	1
特別利益合計	37	457
特別損失		
固定資産処分損	14	2
事業整理損	—	13
固定資産除却損	—	16
その他	45	5
特別損失合計	60	36
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△299	1,117
法人税、住民税及び事業税	391	98
法人税等調整額	8	△131
法人税等合計	400	△32
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△700	1,150
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△700	1,149

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△700	1,150
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	78
繰延ヘッジ損益	2	—
為替換算調整勘定	—	△0
その他の包括利益合計	6	78
四半期包括利益	△693	1,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△693	1,228
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△299	1,117
減価償却費	686	499
のれん償却額	284	211
固定資産処分損	14	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	20	22
賞与引当金の増減額(△は減少)	87	151
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△37	—
受取利息及び受取配当金	△6	△5
支払利息	40	39
株式交付費償却	27	27
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△456
売上債権の増減額(△は増加)	1,019	386
たな卸資産の増減額(△は増加)	△86	59
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,559	△240
未成工事受入金の増減額(△は減少)	1,921	143
未払金の増減額(△は減少)	△620	△231
未払消費税等の増減額(△は減少)	30	46
短期貸付金の増減額	△364	1,679
その他	△87	△140
小計	70	3,312
利息及び配当金の受取額	5	5
利息の支払額	△40	△40
法人税等の支払額	△728	△587
営業活動によるキャッシュ・フロー	△693	2,690
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資事業組合からの分配による収入	—	12
有形固定資産の取得による支出	△421	△81
有形固定資産の売却による収入	0	1
無形固定資産の取得による支出	△107	△163
投資有価証券の取得による支出	△330	△0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△809
貸付けによる支出	△43	△515
貸付金の回収による収入	—	515
差入保証金の回収による収入	—	2
差入保証金の差入による支出	△165	△36
その他	140	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△927	△1,055

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△50	1,100
長期借入れによる収入	3,000	1,900
長期借入金の返済による支出	△1,060	△1,050
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△586	△292
セール・アンド・リースバックによる収入	—	1,046
その他	△244	△156
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,059	2,546
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△561	4,181
現金及び現金同等物の期首残高	9,167	9,115
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	11
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,606	13,309

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

① 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

i. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリックラ事業	レンタル事業	建築コンサル ティング事業	住宅事業	美容・健康 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,568	7,310	2,584	20,494	4,732	41,690	—	41,690
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	1	—	0	20	22	△22	—
計	6,570	7,311	2,584	20,494	4,752	41,713	△22	41,690
セグメント利益又は損 失(△)	302	945	252	△1,088	△94	317	△546	△229

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△546百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△569百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

ii. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

② 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

i. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリクラ事業	レンタル事業	建築コンサル テイング事業	住宅事業	美容・健康 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	7,715	7,213	3,845	4,721	3,511	27,008	—	27,008
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	3	—	—	16	22	△22	—
計	7,718	7,216	3,845	4,721	3,528	27,031	△22	27,008
セグメント利益又は損 失(△)	934	595	112	△84	△147	1,410	△584	825

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△584百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額15百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△599百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ii. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

3. 補足情報

受注の状況

セグメントの名称	受注高(百万円)		受注残高(百万円)	
	前第2四半期 2019年4月1日～ 2019年9月30日	当第2四半期 2020年4月1日～ 2020年9月30日	前第2四半期 2019年9月30日現在	当第2四半期 2020年9月30日現在
住宅事業	17,902	3,458	22,225	4,807